

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史科/地理総合】

#### 1. 対象 1年

この集団は意思表示こそ控えめであるが、全員が授業にしっかり参加しており教員の発問に対して反応がある。授業終了後に質問や感想を伝えに来る生徒が多く、地理の学習に前向きな姿勢がみられる。また、既習事項と関連付けて考えようとする態度がみられ学習意欲が高い集団である。2年次には理系へ進む者が多く、文理問わずクラスのほとんどが地理を選択する。

#### 2. 単元名 「 持続可能な地域づくりと私たち 自然環境と防災 自然災害への備え 」(全3時間)

#### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	現代世界の日本の自然環境によって生じている人々の様子や諸課題について、具体的事例を示しながら理解する。
思考力、判断力、表現力等	日本の自然の特徴が人々の生活とどのように関連しているのかについて図や統計などを用いて考察する。
主体的に学習に取り組む態度	日本の自然の特徴と人々の生活の動向について興味をもち、日本がおかれている自然環境や地理的条件、それに伴う自然災害について意欲的に探究、考察しようとする。

#### 4. 本時の目標

- ア 日本の地理的条件と自然災害の知識、地形図読図の技能を基に、日本の自然災害と人々の生活について課題意識をもち、復興を意識した災害に強い街づくりへ向けた提言ができる。
- イ 班活動を通じて、友達の意見に傾聴し、自分の意見との相違点を見出しながら自他相互に理解を深めることができる。

#### 5. 授業展開【 **本時** ・ 単元 】

<b>解決したい課題や問い</b>
東日本大震災で津波被害を受けた自治体の地形図を読み取り、防災・減災、復興について考え、今後、私たちの街づくりにいかせることはないだろうか。

<b>考えるための材料</b>		
・ 授業用プリント ・ A市(大船渡市)、B市(陸前高田市)両都市の地形図：震災前、2万5千分の1(一部改変) ・ 地理院地図 GSI Maps ・ 今昔マップ on the web 時系列地形図閲覧サイト ・ パワーポイント		
<b>【STEP①】</b> A、B両市を比較して、公共施設の被害状況について推定しよう。 (地形図・地理院地図 GSI 読図、表書き込み)	<b>【STEP②】</b> 【STEP①】をふまえて①両市の被害の様子を推定し、②どちらの都市が効果的な復興により適した都市計画を行っていたのかを考えよう。 (今昔マップ読図、論述形式)	<b>【STEP③】</b> 【STEP②】をふまえて、防災・減災の観点から、津波に強い(復興のスピードが速い、被害が少ない)都市とは具体的にどのような都市であるか、提案しよう。 (論述形式、プレゼンテーション)
想定される活動		
・ A市は公共施設の被害状況が限定的であったことが判断できる。 ・ B市は公共施設が壊滅的被害を	・ 公共施設の被害状況について、A市はB市よりも高台にあることから軽微であると地形図や地	・ 災害時の公共施設の存立の重要性を学び高台や内陸、津波予想浸水域外など津波被害が想定され

<p>受けており甚大な被害が出たことが判断できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各公共施設が果たす災害時の役割について、自身が見聞きした経験をふまえて班員との会話の中で挙げられる。</li> <li>・病院や高等学校の災害時の役割については認識を改めることになる。</li> </ul>	<p>理情報から判断できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低地や港湾部に集中する商工業施設は両市とも壊滅的被害を受けたことが判断できる。</li> <li>・交通関係では、A市はB市よりも被害が軽微であったことが地形図や地理情報から判断できるが、災害時における幹線道路や鉄道の復旧状況や存立の重要性にまで考えが及ばない。</li> <li>・高台に公共施設を集めたA市を、復興に適した都市計画を行ったと回答する。一方で、B市の都市計画に対して肯定的な意見は無く、B市の都市計画について想像する者はいない。</li> </ul>	<p>にくい場所への移転を提案する者が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化の進行する陸前高田市の都市計画の意図をくみ取れる生徒は少ない。</li> <li>・災害時、失ってもよいものについて明確に線引きでき、それに基づいた都市計画を提言できる。</li> </ul>
---	---	--

**対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）**

・津波被害前に修正測量された、2万5千分の1地形図が表す隣接する2つの都市（A市とB市）の市街地の津波被害の様子について考える。

**【STEP①】 A、B両市を比較して、公共施設の被害状況について推定しよう。**

・A市とB市それぞれについて、①市役所②病院③警察署または幹部交番④消防署⑤郵便局⑥高等学校の公共施設について津波による被害を受けたか否かを班ごとに検討して授業用プリントに記入する。（10分）

※**地理院地図GSI Maps**を活用し、東日本大震災での両市における津波の浸水状況について確認しながら施設の被害状況を推定する。

生徒iPad使用

**【STEP②】 【STEP①】をふまえて①両市の被害の様子を推定し、②どちらの都市が効果的な復興により適した都市計画を行っていたのかを考えよう。**

・AとB両市を襲った津波の高さ、【STEP①】の各解答、そして地形図が示す市街地の構造をあわせて考慮し、公共ならびに商工業施設、交通に関わって、A市とB市の被害状況をそれぞれの市について、班で話し合い、意見の発散・集約をはかる。（12分）

※**今昔マップ on the web 時系列地形図閲覧サイト**を活用しながら地図の新旧比較を行い被害状況と復興状況を推定する。

生徒iPad使用

**【STEP③】 【STEP②】をふまえて、防災・減災の観点から、津波に強い（復興のスピードが速い、被害が少ない）都市とは具体的にどのような都市であるか、提案しよう。**

・個人作業にて、「津波被害に強い都市」について図や文字を使って示す。授業用プリントに記入後、ロイロノートにて提出する。（10分）

・提出後、数名（班長）の意見を紹介し発表する。

生徒iPad使用

**学習の成果（予想される生徒のあらわれ）**

- ・新旧地形図から情報を正確に読み取ることができ、地形図読図の基本的技能を身につけている。
- ・災害時における公共施設の存立意義を、説明している。
- ・東日本大震災における津波被害を例に、自然と人間の営みに関わる基本的な課題を自己の身近な存在と捉え、意欲的に地理的視点から探究する方法を身につけている。